

最初にアルコール飲料と薬の相互作用の前にお願ひがあります。それは、病気によっては、お酒を飲むことが禁じられていることです。必ずお医者さんに「お酒を飲んでいいのか、いけないのか」聞いてください。また、飲んでよい場合でもアルコールの量の指導を受けてください。



アルコールと薬の相互作用には大きく分けて3つのパターンがあります。それは、

1. アルコールが薬に影響を与える場合。
2. 薬がアルコールの代謝に影響を及ぼす場合。
3. アルコールと薬の作用が重なり合い作用が増強される場合です。

1. の場合、解熱鎮痛剤は胃腸障害が増強され、総合感冒剤は作用が増強されることがあります。

2. の場合、例えばサルファ剤のスルホンアミドやセフェム系の抗生物質で頭痛、めまい、吐き気が現れることがあります。

3. では、睡眠鎮静剤、抗うつ剤、筋弛緩剤、血管拡張剤、抗ヒスタミン剤などがあります。

いずれの場合もアルコールと薬の相互作用には多くのケースが考えられ、思わぬ作用の減弱、増強、時として重大な副作用が現れることがありますので、薬を飲んでいるときのアルコール摂取には十分な注意が必要です。

最後に、栄養ドリンクの一部には1%を超えるアルコール濃度のものもあります。1%以下のドリンク剤でも何本も飲めば知らないうちに多量のアルコールをとっているかもしれません。薬を服用中の方は十分注意してください。